

「はぐくむ」は毎週水曜日に掲載します。

はぐくむ



煙出し人形

口から「お香」の煙

19世紀初めに作られるようになったといわれる「煙出し人形」は、体の中が空洞になっており、足と胴体の上下二つに分かれます。

足の部分にはお香をのせる皿がついており、「モミの木の葉」を乾燥させて固めた「お香」をのせて香をたきます。そして胴体をかぶせると、煙突の原理で口にあいた穴から煙が出てくる、というもの。

エルツ地方では1856年ごろ、ザイフェンに近いハイデルベルク村のフェルディナンド・フロースと彼の甥（おい）のゴットヘルフ・ハウシュタインが

「煙出し人形」を作り始めたと伝えられています。1858年に、ゴットヘルフ・ハウシュタインが独立し、4代にわたって「煙出し人形」を作り続けました。

ザイフェンのフュットナーなど、その後「煙出し人形」を作る工房は増えていき、エルツ地方の代表的な工芸品となりました。

その昔、水たばこは中近東で発明され、ヨーロッパに伝わりました。そのため「煙出し人形」には中近東の人々の姿をまねたものが多いと言われています。（現代玩具博物館館長・橋爪宏治）

■現代玩具博物館・オルゴール夢館：美作市湯郷319-2、☎0868-72-0003
http://www.toymuseum-okayama.jp/

おもちゃの言い分

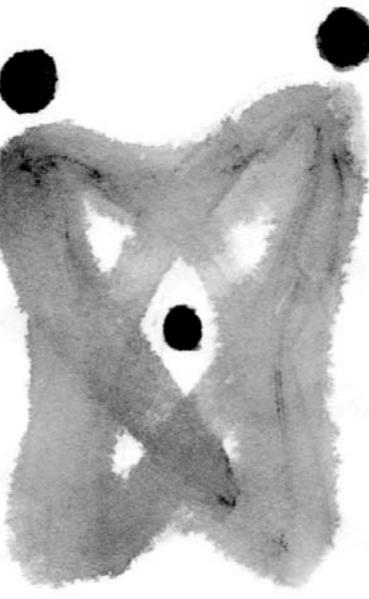
煙出し人形

我が家が知った場合に「遺伝上の父親を探すこと」協力する」との回答は夫22%妻16%でした。吉村泰典らの厚生労働科学研究所（2000年）では日本でAIDを行っている施設中8施設から回答があり、親はAIDの実事を子どもに話すべきと権利を伝えるが、判断は夫婦に任せると回答しました。告知をされている夫婦の理由は「子どもに嘘をつくのがいやだから」「他人から偶然わかると困る」「自分の家族関係が悪くなる」「知らない」とあります。

夫婦にとって、AID（第3精子を用いた人工授精）により子どもを持ったことを誰かに告白することは困難を伴います。夫が無精子症であることを知ることで、自分たちを見れる目が変わるのはどう不安や知らないうちにその事実が子どもへ伝わるのではないかという不安があります。

堀井雅子ら（慶應義塾大学）の報告（2003年）ではAIDで生まれた子どもを持つ14組の夫婦の中に子どもにAIDを告知した例はなく、ほとんどが今後も告知を予定していないませんでした。また、子ど

もがわいそう」というものでした。1985年から出自を知る権利の確立を掲げるスウェーデンでも、最近まで告知をする夫婦は少なかったことが知られています。（清水さよみ（東京医科大学）によるAID施行中の女性）



(イラスト・中山忍)

抵抗大きい子への告知 ～AIDで生まれた子どもと家族②～

子どもがわいそう」というものでした。1985年から出自を知る権利の確立を掲げるスウェーデンでも、最近まで告知をする夫婦は少なかったことが知られています。（清水さよみ（東京医科大学）によるAID施行中の女性）

などと回答したのは7人のみでした。しかし「出自を知る権利」を守らなければ、子どもが疑問を持った場合にアイデンティティが崩れるとも考

えられます。（）岡山大学大学院保健学研究科・中塚幹也（准教授）

医療）

合でも「誠意をもって話す」

などの回答が見られました。また、子どもが知つてしまつた場合、「誠意をもつて話す」

などと回答したのは7人のみでした。しかし「出自を知る権利」を守らなければ、子ども

が疑問を持った場合にアイデンティティが崩れるとも考

えられます。（）岡山大学大学院保健学研究科・中塚幹也（准教授）

医療）

合でも「誠意をもつて話す」

などと回答したのは7人のみでした。しかし「出自を知る権利」を守らなければ、子ども